〔日本書紀一神代〕一書曰、天神謂伊弉諾尊、伊弉冊尊曰、有豐葦原千五百秋瑞穗之地、宜汝往循之、迺賜天瓊戈、於是二神、立於天上浮橋、投戈求地、因畫滄海、而引擧之、卽戈鋒垂落之潮、結而爲島、名曰磤馭盧島、二神降居彼島、化作八尋之殿、

〔古事記中景行〕爾天皇亦頻詔、倭建命、言向和平東方十二道之荒夫琉神、及摩都樓波奴人等、而副吉備臣等之祖、名御鉏友耳建日子、而遣之時、給比比羅木之八尋矛、

〔古事記傳四〕尋ハ兩手を伸たる長さを云、今人も然して一尋と定るなり、其は手を廣げて度る故に、一廣げ二廣げの意なるべし、

〔運歩色葉集比〕一尋布

〔長曾我部元親百箇條〕掟

一布木綿ハ善惡によらず、大工金ニ四尺五寸を尋にして、七尋たるべし、太布ハ可爲六尋事、〇中略

慶長貳年三月廿四日　盛親在判　元親在判

〔和漢名數數量〕度名　四尺爲尋

〔天明八年板〕早算法〕一尋は、曲尺にて五尺、呉服尺にては四尺なり、

〔古事記上〕於是天照大御神見畏、閉天石屋戸、而刺許母理此三字以音坐也、爾高天原皆暗、葦原中國悉闇、因此而常夜往、於是萬神之聲者、狹蠅那須此二字以音皆滿、萬妖悉發、〇中略召天兒屋命、布刀玉命、布刀二字以音、下教此、〇中略天香山之五百津眞賢木矣、根許士爾許士而自許下五字以音〇中略於中枝取繫八尺鏡、訓八尺云八阿多、

〔古事記傳八〕八尺鏡　延佳が、尺當作咫と云るぞ宜き、こは決く寫誤れるものなり、

〔釋日本紀七述義〕延喜公望私記云、于時戸部藤卿進曰、嘗聞或說八咫烏者、凡讀咫爲阿多者、手之義也、一手之廣四寸、兩手相加、正是八寸也、